

身体障害者診断書・意見書 (小腸機能障害)

総括表

氏名	年 月 日生	男 女
住所		
① 障害名 (部位を明記)		
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他 ()	
③ 疾病・外傷発生年月日	年 月 日	・場 所
④ 参考となる経過・現症 (エックス線写真及び検査所見を含む。)		
障害固定又は障害確定 (推定)		年 月 日
⑤ 総合所見		
軽度化による将来再認定 要 (時期 年 月) ・ 不要		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。		
年 月 日		
病院又は診療所の名称		
所 在 地		
診療担当科名 科 医師氏名		
身体障害者福祉法第 15 条第 3 項の意見 [障害程度等級についても参考意見を記入] 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・ 該当する (級相当) ・ 該当しない		
注意 1 障害名には現在起っている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入して下さい。 2 障害区分や等級決定のため、富山県社会福祉審議会から改めて次ページ以降の部分についてお問い合わせする場合があります。		

小腸の機能障害の状況及び所見

身長	cm	体重	kg	体重減少率	%
				(観察期間)

1 小腸切除の場合

(1) 手術所見 ア 切除小腸の部位 _____, 長さ _____ cm
 イ 残存小腸の部位 _____, 長さ _____ cm

(手術施行医療機関名 _____ (できれば手術記録の写を添付する。))

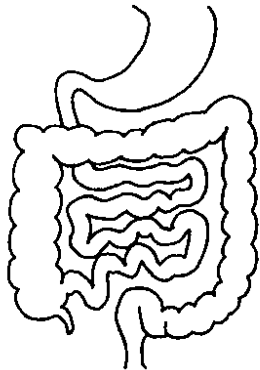
(2) 小腸造影所見 ((1)が不明のとき) … (小腸造影の写を添付する。)
 推定残存小腸の長さ、その他の所見 _____

2 小腸疾患の場合

病変部位, 範囲, その他の参考となる所見 _____

(注) 1 及び 2 が併存する場合はその旨を併記すること。

[参考図示]



切除部位 
 病変部位 

3 栄養維持の方法 (該当するものを○で囲むこと。)

(1) 中心静脈栄養法

ア 開始 日	_____	年	月	日
イ カテーテル留置部位	_____			
ウ 装具の種類	_____			
エ 最近6か月間の実施状況	(最近6か月間に _____ 日間)			
オ 療法の連続性	(持 続 的 ・ 間 歇 的)			
カ 熱 量	(1日当たり _____ kcal)			

(2) 経腸栄養法

ア 開始日 年 月 日
イ カテーテル留置部位 _____
ウ 最近6か月間の実施状況 (最近6か月間に 日間)
エ 療法の連続性 (持続的・間歇的)
オ 熱量 (1日当たり kcal)

(3) 経口摂取

ア 摂取の状態 (普通食・軟食・流動食・低残渣食)
イ 摂取量 (普通量・中等量・少量)

4 便の性状 (下痢, 軟便, 正常), 排便回数 (1日 回)

5 検査所見 (測定日 年 月 日)

ア 赤血球数	/mm ³	キ 血色素量	g/dℓ
イ 血清総たん白濃度	g/dℓ	ク 血清アルブミン濃度	g/dℓ
ウ 血清総コレステロール濃度	mg/dℓ	ケ 中性脂肪	mg/dℓ
エ 血清ナトリウム濃度	mEq/ℓ	コ 血清カリウム濃度	mEq/ℓ
オ 血清クロール濃度	mEq/ℓ	サ 血清マグネシウム濃度	mEq/ℓ
カ 血清カルシウム濃度	mEq/ℓ		

- (注) 1 手術時の残存腸管の長さは、腸間膜付着部の距離をいう。
2 中心静脈栄養法及び経腸栄養法による1日当たり熱量は、1週間の平均値によるものとする。
3 「経腸栄養法」とは、経管により成分栄養を与える方法をいう。
4 小腸切除（等級表1級又は3級に該当する大量切除の場合を除く。）又は小腸疾患による小腸機能障害の障害程度については、再確認を要する。
5 障害認定の時期は、小腸大量切除の場合は手術時をもって行うものとし、それ以外の小腸機能障害の場合は6か月の観察期間を経て行うものとする。